

ミニ盆栽を育てよう～日本の伝統園芸文化に触れる

作成者：日本ハンギングバスケット協会 山口 まり

- 対象者・人数：小学校中学年以上 5～40名
- 所要時間：90分
- 指導者・アシスタント人数：指導者1名、アシスタント2～10名
- 対象場所：学校 児童館等

■ 資材

- ・鉢（直径8cm～15cm程度）
- ・アルミワイヤー（φ1[㍉] 2[㍉]）
- ・鉢底ネット
- ・園芸用ハサミ
- ・用土（赤玉土 小粒）
- ・化粧土（富士砂 細粒）
- ・緩効性肥料
- ・竹製の先の細い割り箸

■ 植物

- ・樹木のポット苗
- ・コケ



■ 主催者・講師が準備するもの

- ・目の細かいジョウロ
- ・霧吹き
- ・水を入れる桶やバケツ（4～5人で1個）
- ・スプーン（プラスチック製の大きめのスプーンが良い。1グループ1本）
- ・作業用の鉢の受け皿、または、大型のレジ袋
- ・持ち帰り用袋



【指導内容と目的】

盆栽とは、小さい中に本格的なスケールの自然を表現したものといえるだろう。小さな器（鉢）に草木を植え、自然（季節・風景・時の流れ）を演出するために、鉢・樹形のバランスを考えながら制作・栽培を行う。また、観賞するために美しく清潔に整えることも重要。

日本には、江戸時代以前より植物を鉢に植えて楽しむ文化がある。

その園芸文化は、江戸時代に大いに発展し日本独自の植物の楽しみ方や栽培方法が確立され「伝統園芸文化」として、現在でも受け継がれている。特に江戸時代末は、園芸文化の円熟期で、日本を訪れたイギリス人 ロバート・フォーチュンは、江戸の庶民が植物を栽培・愛でる姿は、世界一であると紀行記『江戸と北京』で記述している。

しかし、現在の日本では盆栽の基本的な見方や味わいかたなどの、伝統園芸文化を知る人も少なくなっている。

海外での伝統園芸文化の評価はとて高く、とくに盆栽（Bonsai）は、世界共通語ともなっているばかりでなく、各国に盆栽の愛好団体も結成されている。

子どもたちが「伝統園芸文化」の一端にふれることにより、自国の文化を知識・教養として知り、外国人と交流するに当たり、説明できることも大切なことである。

【対象者への配慮】

- ・盆栽に興味を湧くよう、盆栽の歴史を伝える。
（謡曲「鉢の木」の逸話や江戸城には盆栽があったなど）。
- ・盆栽の様式美を知ってもらうために、見方・味わい方も伝えること。
- ・できれば、ある程度完成した盆栽や、さまざまな樹種の盆栽を見本として見せる。
- ・細かく緻密な作業が多いので、アシスタントの数は多い方が良い。
- ・植込み=完成ではないので、今後の管理等もしっかり伝えること。
- ・剪定・芽摘み・追肥等があるので、長期に亘り、関わると良い。
- ・たくさんの盆栽を見ることも盆栽理解の一助になるので、盆栽展等を訪れても良い。
- ・盆栽にする樹の種類は、丈夫で扱いやすいもの、暑さや多少の水切れに強いものを準備する。
- ・植え替えの作業時期が限定される（樹種により、3～6月ごろ、9月）
- ・盆栽独特の用語があるので、分かりやすい言葉に置き換えるか、用語の説明をする。
- ・棘があったり、かぶれる恐れのある樹種は避ける（ピラカンサ、ハゼノキなど）。
- ・植え付け作業は、十分に時間を取り、ゆっくり・丁寧に進める。
- ・ハサミやワイヤーなどを使用するので、怪我をしないように注意喚起する。

① スケジュール

年間、伝統園芸指導計画

季節	月	テーマ	植材・資材	備考
冬	1	春の七草の寄せ植え	春の七草	春の野原に出て野草の観察
		盆栽を飾ってみよう	飾り台、敷物、小物を用意する	今までに作成した作品を飾って観賞会を開く
		春一番に咲く花を植える	ヒメリュウキンカ、ミスミソウなど	自然の山野の景色を作る
	2	早春の花木を楽しむ	ヒュウガミズキなど	春一番に咲く花木を植え付け
		ボケ	ボケ各種 チョウジュバイ	寒中に咲いてくれる生命力あふれる姿を楽しむ
		盆栽展に行ってみよう	大きな盆栽にふれてみる	2月に『国風盆栽展』が開催されるので、見学に訪れても
春	3	雑木林を創ろう	前年に実生した苗を使う	3~5本の複数本の落葉樹を植える。異なる樹種を植えてもよい
		石付をつくってみよう	小さな岩に樹木や草を植える	芽だし前なので乱暴な扱いをしても大丈夫
		皐月・ツツジを植える	皐月やツツジのつぼみ付き小苗	初夏の開花に向け鉢や姿を整える⇒初夏に皐月展へ行こう
	4	苔を植えてみよう	苔を数種用意	苔で自然の雄大な風景を作ってみる。石を配しても良い
		盆栽の素材作りをしよう	樹木のタネまき	秋に様々な種子を採種したものを蒔き、素材作りをする
		ミニバラの盆栽仕立て	ミニバラ・レンゲローズ	ポット苗を薄い鉢に植える。母の日のプレゼントに
	5	初夏の山野草を植える	ホタルブクロ、センノウ、キョウガノコなど	初夏の山野の景色を作ってみる
		クロマツ	幹に曲がついた苗を使う	盆栽の正面や向きを教えるには良い素材
		スギ	八房杉がお勧め	枝が密に出ているので剪定し姿を整えるにはよい素材
夏	6	クチナシ	小型の種類がお勧め	植え替え・剪定の適期
		サルスベリ	小型の種類がお勧め	暑さに強く、6月に作業してもよい
		盆栽の素材作りをしよう	挿し木の適期	樹木の挿し木をして、素材作りをし次の年代につなぐ
	7・8	水辺の草の草玉	アシ・トクサ・イグサ・ベニチガヤ	ケト土を使って半球状の団子を作り、そこに挿し木してもよい
		苔玉	トクサ・アシなど	ハイゴケを使う
柳を植えよう	枝垂れ柳、ネコヤナギ	水辺の景色を作ってみる		
秋	9	秋の七草の寄せ植え	秋の七草の一部を使用	由来等を説明する。野菊・リンドウ・イヌタデなどを加えても
		洋種の樹木を植えつけて	ロニセラ、オリーブ、マートルなど	リーフプランツとして葉色の美しい小型に樹木を使っても良い
		自分で殖やした苗を盆栽に	挿し木・実生したものを鉢植えに	将来の姿を想像させながら作業させる
	10	実の付いた樹木を植える	コナアスター、ムラサキキブなど	実がなっている樹木は、楽しい
		多肉植物を盆栽風に	寒さに強いセダム類など	和風の鉢に景色を考えながら植え付ける
		秋の鑑賞会に出かけよう	各地で盆栽展が開催される時期	紅葉や実がなっている姿を観賞しよう
11	サザンカを植えよう	つぼみ付きの小苗を使う	根を崩しすぎないように気をつける	
	洋種の草花を盆栽風に	ダイアンサス、オギザリス	和風の鉢に植え付けて、鉢の大事さを感じてもらおう	
	盆栽の素材作り	樹木のタネを集めに行こう	ケヤキ、イチヨウ、モミジなど	
冬	12	松・笹がお正月の寄せ植え	“寒水”を使って寄せ植えの演出	白い砂(寒水)の意味合いと演出方法
		伝統園芸植物で正月の寄せ植え	藪柑子、南天、ジャノヒゲなど	伝統園芸植物に触れる。おめでたいわれのある植物の説明
		お正月の飾りをしてみよう	お正月らしい小物を用意する	お正月の意味合いとお正月を迎える演出をする

② 事前の準備

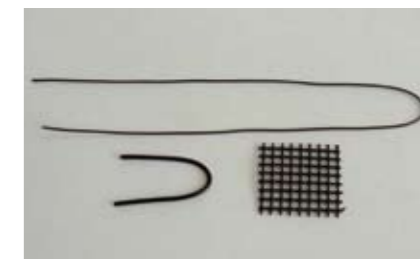
■ 会場との打合せ

- ・ 搬入経路 ・ 床や机の養生 ・ 備品
 - ・ ゴミ処理 ・ 参加人数の確認
- 作業スペースや最後に水やりができる場所があると良い。



■ 資材の準備

- ・ 鉢
陶器製の中深～浅い鉢が良い。
(中深程度のものが植え込みやすい)
素焼きではなく、焼き締めや釉薬のかかっているもの。
丸型は柔らかな雰囲気、正方形・長方形の鉢は硬い感じに仕上がる。
直径8cm～15cm程度が作りやすい。
- ・ 鉢底ネット
園芸専用の鉢底ネット。
(ホームセンター・園芸店)
※網戸の網でも代用可能。
鉢の穴の大きさに合わせて、人数分に切り分けておく。
- ・ ワイヤー (アルミが茶色にコーティングされている) φ1ミリ・2ミリ
直径1ミリは、鉢と植物の固定用。
直径2ミリは、鉢と鉢底ネットの固定用。
植物の大きさによりそれぞれ、必要な長さに切り分けておく。
- ・ 園芸用ハサミ
ワイヤーが切れるもの。刃先が細いもの。
- ・ 用土 (赤玉土 小粒)
地域で入手しやすい用土が良いが、粒が壊れにくく、水はけ・水持ちが良いもの (硬質赤玉土、硬質鹿沼土など)
- ・ 化粧土 (富士砂 細粒)
植え付け後、鉢の表面に敷き、植え土や植え付け時の乱れを整えるため。富士砂以外でも可。
硬く・粒子が壊れにくいもの。その際は、予めフルイで粒子を揃えておく。



- ・ 緩効性肥料
元肥として植付け時に混入する。
追肥用の肥料の小袋なども渡しておくが良い。



- ・ 竹製の先の細い割り箸
根鉢を崩したり、植え付け時に、根と根の間、根と鉢とのすき間に用土を丁寧に送り込むためのもの。

■ 樹木苗の準備

- ・ 2～3号のポットで仕立てられているもの。
- ・ 実生・挿し木苗が安価でよい。
- ・ 植え付け作業の時期に合わせ樹種を選択をする。



〈ミニ盆栽に適する入手しやすい樹種〉

(例：関東南部)

3月＝温帯性落葉樹：モミジ・カエデ・ケヤキ・ウメ・サツキ・コバノズイナ・コナラ・サクラ・ブルーベリー・ユキヤナギ・ヤナギ・オウバイ

4月＝温帯性樹種：クロマツ・スギ・ヒノキ・ヒバ・イチョウ

5月＝温帯南部・亜熱帯産樹種：サルスベリ・ツバキ・ナツツタ・ヘンリーツタ

6月＝クチナシ・サツキ・スイレンボク・サルスベリ・ヒメザクロ・ヤナギ

9～10月＝実物・花物：コムラサキ・コトネアスター・サザンカ

③ 当日の流れ

時間：90分程度

■ 具体的な手順・指導ポイント

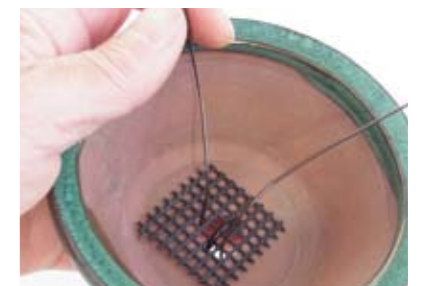
- ・ 盆栽とは？
盆栽と鉢植えの違いについて話をする。
日本の伝統園芸文化であることを知ってもらう。
文化を引き継いでいくことの大切さについて話す。
- ・ 盆栽の見方・味わい方の話（観賞のポイントや様式美など）
実物や写真を見せながら話すと良い。
- ・ 鉢の正面を見せながら資材の説明をする。
樹種の特徴や正面の位置の決め方を説明する。



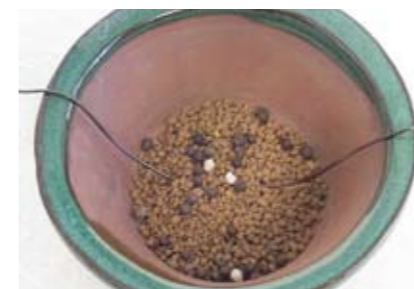
植え付けの実際

(例：スギ 作業時期：4～5月、9月)

- ① 鉢（直径10.5cm×高さ4.5cm）
素材（スギ：高さ19cm）



- ② 鉢の正面を決め、鉢底網をワイヤーで固定し、樹の固定用のワイヤーを通しておく。



- ③ 鉢底に用土を少し入れ、緩効性化成肥料を少量加える。



- ④ スギをポットから抜き、根の張り具合を確かめながら、根をほぐすように根鉢を丁寧に崩す。この際、幹の株元の部分の土も丁寧に落とし、根の出具合も確認しておく。



- ⑤ 長すぎる根は、切り詰める
(細根の状態を確かめながら)



⑥ スギの正面を決め、鉢の正面とあわせ、株元の位置が鉢の縁よりやや高くなるように、スギを設置する（高さは用土の量で加減する）



⑦ 植物固定用のワイヤーで、根鉢の部分をしっかり止める。余分なワイヤーは切り取り、端は内側に折り曲げておく。



⑧ 満遍なく用土をいれ、根と根の隙き間に土が隙間無く入るように、割り箸で丁寧にすきこむ。土を入れながら、最終的にスギの角度、位置、向きを微調整する。



⑨ しっかり土が入ったら、表面を指先で軽く叩きながらならし、やや中高になるよう土を足しながら、綺麗に整える。



⑩ 鉢の受け皿やバケツなどに水を張り、その中に植えつけた鉢をいれ下部から水を十分に吸わせる。



⑪ 水を切った後、美しく整えるために‘化粧’作業をする。まず、植え付けて乱れたところや景色を考えながら表面に苔を貼る。苔は、用土に密着させるようしっかり指先で押える。



⑫ 苔と苔のつなぎ目や用土が見えているところには、化粧土（富士砂など）をスプーンを使ってまき、指先で軽く叩いてコケや用土と馴染ませる。



⑬ 完成。早速飾って楽しんでみよう。



一本杉とその足元にある道祖神をイメージして、薄い板の上に出来上がったミニ盆栽と手作りのお地藏さん風の小物を添えた。



小さな花瓶用の台に乗せ、季節の野草（ヒメタデ）と共に飾り、山野の景色と季節感を演出した。

- ・ 完成後は、一箇所に並べて、一つ一つの作品を観賞する。
この際、作者に作成意図を聞いても良い。
また、代表した何鉢かを、持参した飾り道具（卓、地板、添配など）を使い、「1席」として飾ってみても楽しい。
（飾る際の注意を話すこと）
植物を飾るといふことの素晴らしさを知ってもらう。
- ・ 終了
時間があれば、今日の作業や盆栽の特徴・植込み作業のポイント等を書いて、作業の印象付けを行う。
これからの管理の方法を伝える
（簡単な管理方法や整姿方法を書いた資料を用意する）

■ 所要時間や配分

開始60分前	① 集合・学校や主催者への挨拶・打合せ 会場準備（床・机面養生、材料運び込み・配布、水の用意）
20分（20分）	② 児童集合・挨拶（講師・アシスタント自己紹介）盆栽の話
↓	
30分（10分）	③ デモンストレーション
↓	
45分（30分）	④ 開始
↓	
60分（20分）	⑤ 作品を整える作業 時間があれば今日の感想を聞く
↓	
75分（15分）	⑥ 今後の管理方法等の説明と片付け
↓	
85分（10分）	⑦ 終了の挨拶 解散終了

■ 作成後の管理

- 置き場**：日当たりや程好い通風がある、棚の上に置く（直接、地面には置かないようにする）
夏は、午前中は日が当たり、日中～夕方は、直射光が当たらないところで管理する。
冬は、寒風や霜・雪が当たらず、凍らない程度のところに置くと良い。
- 水やり**：鉢土の表面が乾いたら、鉢全体に水がしみこむよう、ジョウロで丁寧に水やりをする。
春・秋は、1日1回程度。夏は、1日2～3回、冬は、2～3日に1回程度が目安。
- 肥料**：春と秋の植物の生育期に、緩効性の肥料を置き肥として施す。
- 整姿・枝**：新芽が伸びたら、芽摘みを行ない、徒長枝は切り取る。花が咲く種類は、花後に剪定する。
- 植え替え**：2年に1度、春、又は秋に植え替える。
- その他**：毎日の変化をよく観察します。雑草が生えたらその都度、小さなうちに抜き去る。
害虫や病気が発生したら、捕殺したら薬剤散布して防除する。

■ 参考

- 盆栽を鑑賞できる美術館
さいたま市大宮盆栽美術館 <http://www.bonsai-art-museum.jp/>
- 全国組織の盆栽愛好者の団体
社団法人日本盆栽協会 <http://www.bonsai-kyokai.or.jp/>